

A 図書室で選ぶ理由

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問

主張と根拠、譲歩と提案を結ぶ

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 学校の図書室で新しい本を選ぶ場面を考えてみよう。限られた予算を使うのだから、希望の多い本から買うのが公平だという考えには分かりやすさがある。実際、希望の数は、今いる生徒の関心を知る手掛かりになる。しかし私は、希望の数だけで購入する本を決めるべきではないと考える。それは人気のある本を軽く見たいからではない。希望を出すまでの条件が、人によって違うからである。
- ② 読みたい本の名を書くには、まずその本の存在を知っていなくてはならない。友達との会話や店頭の紹介で何度も見聞きする本は、希望にも挙がりやすい。一方、まだ読んだことのない分野の本を、題名まで挙げて希望するのは難しい。例えば、偶然開いた図鑑から建物の仕組みに興味を持つこともあるだろう。その出会いが起こる前の希望調査には、後に生まれる関心をそのまま表すことはできない。希望がないことと、読まれる価値がないことは同じではない。
- ③ だからといって、担当者がよいと思う本だけを並べればよいのでもない。利用する生徒が何を求めているかを確認せず、「いつか役立つ」と説明しても、選び方への納得は得にくいだろう。「借りられない本に予算を使う余裕はない」という意見にも、限られた予算を無駄にしたくないという理由がある。この心配を単なる目先の考えとして退けてしまえば、希望の数だけで決める方法と同じように、別の立場の理由を見失ってしまう。
- ④ そこで、希望の多い本を選ぶ枠と、新しい分野に触れる本を選ぶ枠を設け、後者については選んだ理由を短い紹介とともに示す方法を提案したい。割合は図書室の蔵書や予算に応じて考えればよく、最初からどの学校にも同じ数を当てはめる必要はない。紹介を読んだ生徒が、興味を持った点や分かりにくかった点を伝えられるようにすれば、担当者の判断も後から確かめられる。生徒の希望と担当者の判断を、互いに点検できる形にするのである。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

A 図書室で選ぶ理由

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題1ページ。

⑤ この方法でも、選んだ本が全て読まれるとは限らない。だから購入後の確認が必要になる。ただし、短い期間の貸出回数だけで成功か失敗かを決めるのは早い。紹介する場所を変えたら手に取られるか、授業で関心が生まれた後に利用されるか、といった経過も見る必要がある。反対に、選んだ理由を説明しただけで、その本をいつまでも優先してよいわけでもない。利用の様子と寄せられた意見を次の選書に生かすことが、予算への責任にもなる。

⑥ 図書室は、今読みたい本を手に入れる場所であると同時に、まだ知らない関心に出会う場所でもある。この二つを両立させるには、数で捉えやすい希望と、すぐには数にならない可能性の両方を扱わなければならない。大切なのは、誰かの判断を無条件に信じるのではなく、選ぶ理由を開き、利用の経過に照らして選び方を改めることである。公平さは、初めから一つの数字で決まるものではない。選択の理由を確かめ合える手続きの中にもある。

問1 筆者が中心に検討している問題として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 図書室の本の貸出期間を、利用目的に合わせてどう変えるか。
- イ 予算を増やすため、生徒の希望をどう数字にまとめるか。
- ウ 今ある希望と未知の関心を、図書室の選書にどう生かすか。
- エ 生徒に人気がある本を、授業の教材としてどう評価するか。

問2 ②段落の図鑑の例が①段落の主張を支える理由として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 希望調査ではまだ表れない関心が、本との出会いから生まれる場合があるため。
- イ 図鑑の題名を知らない生徒は、他の分野の本も希望できない場合があるため。
- ウ 図鑑の購入希望が少なくても、紹介を増やせば必ず貸出数が増えるため。
- エ 希望の多い分野よりも、未知の分野の方が学習への効果が高いため。

本文メモ 主な内容と、根拠になる段落を確かめよう。

A 図書室で選ぶ理由

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 設問

本文は問題1・2ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問3 ④段落の「互いに点検できる形」にする対象を、「～と～」という形の一続きの言葉で④段落から抜き出さない。（12字。かぎカッコは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 12

問4 ③段落で筆者が反対意見を扱う態度として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 予算の無駄という心配を認め、希望数だけで決める方法へ主張を改めている。
- イ 予算の不足は選書と別の問題だとし、購入後に考えることを求めている。
- ウ 担当者の知識の方が信頼できるとし、生徒の心配を誤解として退けている。
- エ 予算への心配の理由を認め、一方の判断だけに頼らない方法を考えている。

問5 ⑤段落に基づく選書の振り返りとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 購入後一か月の貸出が少ない本は、選んだ理由を問わず次から対象外にする。
- イ 貸出回数に加えて、紹介や授業との関係、その後の利用の経過を確かめる。
- ウ 未知の関心を広げる枠の本は、利用されなくても毎年同じ割合で買い続ける。
- エ 生徒に選んだ理由を知らせた本は、担当者が振り返りの対象から外す。

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

A 図書室で選ぶ理由

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 設問

本文は問題1・2ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6 ③段落を置くことで、④段落の提案にどのような説得力が生まれますか。反対意見の理由と提案の特徴を結び付けて説明しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

問7 ある生徒が「筆者は希望調査が役に立たないと考えている」と述べました。この読み方が不適切な理由を、①・④段落に基づいて説明しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

問8 筆者が考える図書室の選書の在り方を、二つの役割と選び方の改善に触れてまとめなさい。
(55字以上90字以内)

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

B 失敗を次の判断にする

標準 | 目安 35分 | 全8問

反論への応答と主張の条件を読む

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 何かを練習するとき、私たちは成功した手順を残そうとする。うまくいった方法を再び使えるようにするのは合理的である。それに対して、失敗した試みは消したり、見なかったことにしたりしやすい。だが、結果だけを整理した記録には、なぜその方法を選んだのかが残らない。私は、失敗を振り返る記録を、次の判断に使える形で残すことに意味があると思う。ただし、失敗の数を増やすことそのものが目的なのではない。
- ② 例えば、学校の演劇で、観客にせりふが届かなかった場面を考えよう。次の練習で声を大きくして改善したとして、「声を大きくする」とだけ書けば、別の場面でも大声を出せばよいと受け取られるかもしれない。実際には、俳優が客席に背を向けていたことや、同時に流した音楽が重なったことが関係している場合もある。どんな条件で何が起き、どこを変えたのかを残して初めて、別の場面でも使える判断の材料になる。
- ③ もちろん、練習中の出来事を全て書き留めるには時間がかかる。「記録するより、もう一度やってみた方が早い」という意見もあるだろう。この意見は、実際に試す時間の大切さを指摘している。そのため、私は長い反省文を毎回書くことを勧めたいのではない。次に変える点を決めるために必要な条件だけを、短い言葉で残せばよい。同じ失敗が続いているときには、すぐに繰り返すより、一度立ち止まって条件を比べる方が、試す方向を見つけやすくなる。
- ④ また、記録が誰かの責任を決めるために使われるなら、書く人は不都合なことを隠したくなるだろう。「あの人が声を出さなかった」とだけ書かれても、位置や音楽との関係は検討できない。誰が悪いかを定めることと、出来事の条件を調べることは分ける必要がある。行動への責任がなくなるのではない。改善のための記録では、本人が次に変えられる行動と、周囲が変えられる環境を具体的にすることが優先されるのである。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

B 失敗を次の判断にする

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題5ページ。

- ⑤ 一方、失敗を大切にするという言葉が、準備不足の言い訳になることも避けたい。危険が予想される作業で、経験になるからと確かめずに試すのは、ここでいう学びではない。事前に防げる問題を防いだ上で、なお起きた違いを調べる。さらに、以前の記録があっても、今回の条件が同じだとは限らない。記録を正解の一覧として読むのではなく、今の場面と比べるための資料として扱うことが必要である。
- ⑥ 失敗の記録が価値を持つのは、それを書いた瞬間よりも、次の試みを選ぶときである。条件と変更点が分かれば、うまくいった方法をそのまま繰り返すか、別の方法を試すかを理由とともに決められる。成功を喜ぶことと失敗を調べることは、互いに妨げ合わない。どちらの結果からも、判断の過程を取り出せるからだ。残すべきなのは失敗を責める言葉でも、失敗したという事実だけでなく、次に何を確かめるかにつながる手掛かりである。

問1 本文の中心的な主張として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 成功した手順は場面を越えて使えるので、失敗より先に詳しく記録するべきだ。
イ 失敗時の条件と変更点を記録し、次の場面の判断に使えるようにするべきだ。
ウ 失敗の多さは学びの深さを表すので、練習の結果は数で比べるべきだ。
エ 試す時間を確保するため、失敗の理由は活動の終了後にまとめるべきだ。

問2 ②段落で声以外に位置や音楽を挙げた意図として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 声の大きさを改善するより、演劇全体の構成を変える方が効果的だと示す。
イ 聞こえ方の原因を一度に全て変えると、改善までの時間を短くできると示す。
ウ 失敗の原因を担当者に尋ねれば、観客の意見を聞かずに特定できると示す。
エ 結果を一つの行動だけと結び付けず、複数の条件を確かめる必要を示す。

問3 ④段落で、「誰が悪いかを決めること」と区別すべきものを表す言葉を、一続きで抜き出しなさい。(12字。かぎかっこは含めない。)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

12

B 失敗を次の判断にする

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 設問

本文は問題5・6ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問4 ⑤段落を加える効果として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 危険な失敗ほど長く記録する必要があり、軽い失敗の記録は不要だと範囲を絞る。

イ 準備を十分にすれば失敗しないと補い、これまでの説明の例外をなくす。

ウ 失敗を重視する主張が、準備を省く理由や記録への盲信にならないようにする。

エ 危険な作業は練習と関係しないと示し、演劇だけに当てはまる主張へ直す。

問5 本文の主張に最も合う記録の使い方として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 前回との条件の違いを確かめ、変える点を一つ決めて次の試みを計画する。

イ うまくいかなかった人の名前をまとめ、次の活動ではその人の役割を減らす。

ウ 改善できた手順だけを清書し、当時の条件は分かりにくくなるので省略する。

エ 書く時間を一定にするため、結果に関係なく同じ長さの反省文を毎回書く。

問6 ③段落で筆者は「もう一度やってみた方が早い」という意見にどう応じていますか。認めたことと提案したことを示しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

B 失敗を次の判断にする

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 設問

本文は問題5・6ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問7 「責任を問わなければ、行動を改善する必要もなくなる」という反論に、④段落の内容を使って答えなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

問8 失敗の記録を次の判断に役立てるための条件を、何を残し、どう使うかが分かるようにまとめなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

C 残す価値を使いながら問う

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問

対立の捉え直しと根拠の限界を考える

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 町の古い建物を残すかどうかという話し合いでは、「昔の姿を守ること」と「今の暮らしに役立てること」が対立するものとして語られがちである。保存を求める人は変化を嫌い、使いやすさを求める人は歴史に関心がない、と相手を見てしまうこともある。しかし、この二分だけでは、何を変えてよく、何を失うと取り戻せないのかを考えにくい。私は、残す価値を具体的に確かめた上で、その価値が伝わる使い方を探るべきだと考える。
- ② 架空の町に、使われなくなった小さな駅舎があるとしよう。外から見える窓の並びは、町の人が長く親しんできた景色を作っている。一方、内部には狭い段差があり、集会所として使うには入りにくい。建物全体を一切変えずに閉じておけば窓は残るが、内部で過ごした人の話を聞く機会は生まれにくい。反対に、便利さだけを優先して建て替えれば、窓にまつわる記憶を現物と結び付けて語る手掛かりが失われる。
- ③ ここで大切なのは、古さを理由に全てを同じように守ることではない。窓の並びがなぜ親しまれたのか、どんな行事や暮らしの記憶とつながるのかを、資料と人々の話から調べる。その上で、窓の印象を残しながら入口の段差を改めるような案が考えられる。ただし、思い出の多さだけで価値を決めてしまうと、町を離れた人や声を届けにくい人の経験が抜け落ちる。現在集まった意見が、町の記憶の全てではないという注意も必要である。
- ④ こうした案に対し、「使うために変えれば、本来の姿を損なう」という心配は当然ある。変更した箇所が、後で元に戻せない場合もあるからだ。この心配に、活用できればよいとだけ答えることはできない。変更する部分と理由、残す部分との関係を記録し、可能なら元に戻せる方法を選ぶ必要がある。使い始めた後も、価値が伝わっているかを確認する。活用という言葉に掲げれば、どんな変更でも正当化されるわけではない。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

C 残す価値を使いながら問う

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題9ページ。

⑤ また、「利用する人が少なければ、保存する意味も薄い」という見方にも検討の余地がある。多くの人を訪れればよいと考えると、大きな催しのために建物の特徴を消してしまうかもしれない。人数は使われ方を知る大切な材料だが、訪れた人が何に触れ、何を理解したかまでは示さない。小さな聞き取り会でも、窓の修理跡からかつての暮らしを知る機会になれば、その場所で行う理由がある。ただし、少人数だから深い学びがあると決め付けることもできない。

⑥ 保存と活用の間には、どちらか一方を選べば済む境界線があるのではない。何のために残すかを明らかにすると、変えてよい部分と慎重に扱う部分を話し合いやすくなる。そして実際の使われ方から、新たに残すべき価値が見つかる場合もある。保存は過去を固定する仕事だけでなく、過去をどう受け継ぐかを現在の人が問い直す仕事でもある。そのために、残したものだけでなく、変更の理由や迷った点も、次の人が確かめられるようにしておきたい。

問1 ①段落で筆者が問題にしている見方として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 使い方の改善には、建物の特徴を具体的に調べる必要があるという見方。

イ 人々の記憶は、建物の現物と関係付けることで語りやすくなるという見方。

ウ 保存する部分と変更する部分は、後に見直される場合があるという見方。

エ 保存を求める立場と使いやすさを求める立場を、相いれないものとする見方。

問2 ③段落で、現在集まった意見だけでは捉えきれないものを表す言葉を、一続きで抜き出ささい。（7字。かぎカッコは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--

7

本文メモ 主な内容と、根拠になる段落を確かめよう。

C 残す価値を使いながら問う

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 設問

本文は問題9・10ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問3 ②段落で「閉じておく場合」と「建て替える場合」の両方を示す効果として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 二つの方法の費用を比べ、修理する案の方が安いと納得させる。
- イ それぞれに失われるものを示し、保存と活用を一体で考える必要を示す。
- ウ 町の人が建物の外観を重視し、内部には関心がないことを裏付ける。
- エ どちらの方法も安全性に問題があるとし、利用の中止を求める。

問4 ⑤段落末の「少人数だから深い学びがあると決め付けることもできない」を削ると、弱まりやすい点として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 大きな催しを開く場合には、建物の全てを元に戻すべきだという主張。
- イ 聞き取り会に参加できない人の経験を、資料から調べるという提案。
- ウ 人数の大小のどちらだけでも、利用の意味は判断できないという注意。
- エ 利用する人の数を、今後は記録しなくてよいとする説明。

問5 本文についての評価として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 架空の駅舎の例は考え方を具体化するが、全ての建物で両立できることの証明ではない。
- イ 窓の例は印象を残す重要性を示すので、全ての建物で窓を最優先する根拠になる。
- ウ 聞き取り会の例は学びの可能性を示すので、少人数の利用が必ず優れると結論できる。
- エ 駅舎の例は町の記憶を扱うので、住民への聞き取りだけで価値を決められると結論できる。

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

C 残す価値を使いながら問う

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 設問

本文は問題9・10ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6 ④段落で筆者は、本来の姿を損なうという心配にどう応じていますか。心配を認めた上で示した条件を二つ挙げて説明しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

問7 ⑤段落の筆者の考えに沿って、駅舎の活用を人数だけで評価できない理由を説明しなさい。
(55字以上95字以内)

[illegible]

問8 筆者が考える保存と活用の関係を、価値の確認と次の人への受け継ぎ方に触れてまとめなさい。（55字以上90字以内）

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

D 数字と目的の間

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点

論理を評価し、条件付きで主張をまとめる

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 学校の活動を振り返るとき、数字は頼もしい。時間が短くなった、参加する人が増えたなど、変化を共有しやすいからである。だが、数字で示せる成果を決めると、活動の進め方までその数字に合わせて変わることがある。私は、数字を使った評価をやめるのではなく、数字が本来の目的をどこまで表しているかを確かめながら使う必要があると考える。目標を達成したという言葉だけでは、何がよかったのかを十分には説明できない。
- ② 例えば、学級で質問しやすい授業を目指し、毎時間の質問の件数を記録するとしよう。件数が増えれば、声を上げる人が増えた可能性がある。これは改善を考える手掛かりになる。しかし、一人の人が細かな質問を何度もしている場合と、これまで発言しなかった人が一度質問した場合とでは、同じ増加でも意味が違う。また、友達同士で疑問が解決すれば、授業中の質問は減っても、質問しにくくなったとは限らない。
- ③ さらに、「一人一回は質問する」と決めれば、件数を増やすこと自体はできるかもしれない。けれども、疑問がなくても発言することを求められると、必要なときに安心して尋ねるという目的から離れてしまう。ここには、測る対象が変化するだけでなく、測り方によって行動が変わるという問題がある。数字は活動の外から眺めた結果であるだけでなく、次に何をすべきかを参加者に伝える合図にもなるのである。
- ④ 「数字以外も調べ始めれば、評価する人の好みで結論が変わる」という反対は考えられる。確かに、印象だけの評価では理由が見えにくい。だからこそ、数字を捨てて感想に置き換えるのではなく、その数字が何を表し、何を表さないかをあらかじめ共有したい。質問の件数なら、誰がどんな場面で尋ねたかという記録や、尋ねたいのに尋ねられなかった場面の聞き取りと組み合わせられる。異なる材料を使って、判断の理由を示すのである。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

D 数字と目的の間

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題13ページ。

- ⑤ ただし、材料を多く集めれば必ず正確になるわけでもない。調べることが増えすぎれば、活動そのものの時間を奪うし、答える人の負担にもなる。最初から全てを調べるのではなく、数字と活動の目的の間にどんなずれがありそうかを考え、それを確かめる材料を選ぶ必要がある。聞き取りで不安が明らかになったら、次は声をかける方法を変えてみる。このように、評価から次の改善へ進めるかどうか、評価の仕方を見直す手掛かりになる。
- ⑥ 数字による比較は、目的を話し合う代わりにはならない。それでも、数字と具体的な場面を照らし合わせれば、自分たちの思い込みに気付くことがある。件数が減った理由を調べることで、疑問を解決する別の方法が育っていたと分かるかもしれない。数字をよくすることと、活動をよくすることを混同しないために、何の変化を捉えたいのかへ繰り返し戻りたい。評価は順位を決めて終わる作業ではなく、次の行動を選ぶための問いを作る作業でもある。

問1〔8点〕 筆者の中心的な問いとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 活動の参加者を、数字の大きい順にどう公平に並べるか。
イ 数字に関心がない参加者へ、計算の必要性をどう伝えるか。
ウ 活動の目的に照らして、数字による評価をどう改善に生かすか。
エ 評価の印象をそろえるため、参加者の感想をどう省くか。

問2〔8点〕 ②段落で二種類の質問の増加を比べた理由として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 同じ件数の変化でも、質問する人や状況によって目的に対する意味が違うため。
イ 一人が何度も質問する場合は、質問しやすい授業が実現していると判断できるため。
ウ 初めて質問した人の件数だけを集計すれば、質問の内容を調べなくてよくなるため。
エ 件数の比較では、質問の回数が多い人を先に支援すべきだと判断できるため。

問3〔8点〕 ③段落で数字を「合図」と捉えている一続きの部分を、「次に」から「合図」まで抜き出ささい。（18字。かぎかっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

18

D 数字と目的の間

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点 | 設問

本文は問題13・14ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問4〔8点〕④段落の反対意見への応答として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 評価者の好みをなくすには、数字に表れない場面を評価から除くしかないと述べる。

イ 記録と聞き取りの結果が違う場合は、どちらも評価に使わないことを提案する。

ウ 感想を数値化して合計すれば、評価する理由を説明する必要はなくなると述べる。

エ 印象だけの評価の弱点を認め、数字と別の材料を組み合わせる判断理由を示す。

問5〔8点〕本文の議論の限界についての評価として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 質問の例から、全ての活動では数字を使わない方がよいと結論できる。

イ 質問の例は数字と目的のずれを示すが、どの活動でも同じ補足材料が有効だとは示していない。

ウ 件数が減る場合を扱ったので、件数が増えた場面の説明は矛盾になる。

工 聞き取りの負担にも触れたので、異なる材料を使う提案は完全に取り消されている。

問6〔20点〕③段落の「測り方によって行動が変わる」とは、この例ではどういうことですか。本来の目的とのずれが分かるように説明しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

D 数字と目的の間

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点 | 設問

本文は問題13・14ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問7〔20点〕 質問の件数が減った授業を振り返ります。本文に沿って、追加で何を確認め、なぜ確かめるとよいかを一つ提案しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

問8〔20点〕 数字を用いる評価の在り方について、筆者の主張を、目的・補足する材料・次の行動の三点に触れ、調べる際の負担への配慮も含めてまとめなさい。（55字以上95字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。